



FUKUOKA PREFECTURAL  
UNIVERSITY

福岡県立大学 附属研究所

2017. 10

# 生涯福祉研究センター

事業報告書

2016（平成28）年度

福岡県立大学 附属研究所

## 目 次

### I 調査研究事業部門

1. 2016年度 生涯福祉研究センター研究プロジェクト一覧 ..... 1

### II 地域支援事業部門

1. お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング） ..... 1
2. おもちゃとしょかん・たがわ ..... 3
3. 福岡県立大学福祉用具研究会 ..... 5
4. アンビシャス親子広場・学生クラブ ..... 6
5. 地域に住む外国人のための日本語教室 ..... 7
6. 足と靴の相談室 ..... 7
7. アドボチャイルド ..... 9

### III 教育研修事業部門

1. ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム ..... 9
2. 保育士・教師のためのペアレントトレーニングスキルアップ講座 ..... 10
3. 筑豊英語教員フォーラム ..... 11
4. さわやかな自己表現塾 ..... 11
5. 福祉用具体験講習 ..... 13
6. リカレントセミナー① ..... 15
7. 福岡県立大学福祉学会（リカレントセミナー②） ..... 15
8. 山本作兵衛さんを「読む」会 ..... 17

### IV その他の事業

1. 筑豊市民大学 ..... 17
2. 山本作兵衛関連資料の整理およびデータベース化 ..... 17

## I 調査研究事業部門

### 1. 2016年度 生涯福祉研究センター研究プロジェクト一覧

生涯福祉研究センター研究プロジェクト	代表者
ピアノロールの計量的解析によるワルツ作品の演奏分析	鷺野彰子
眼球運動・瞬目反応を用いた発達障害児の心理過程アセスメント	福田恭介
「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究	神谷英二
ネパールの男児選好にみるジェンダー、カースト・民族、機能文化的社会関係	佐野麻由子
旧産炭地における定着・抽出・還流——貧困・生活不安定層の移動経験と労働＝生活過程	堤 圭史郎
認知的／社会文化的アプローチを融合した多読プログラムの開発とその教育的効果の研究	水野邦太郎
ADHDマウスの衝動性と前注意機能を指標とした応用行動分析と薬物医療との統合のとの試み	麦島 剛

順不同

## II 地域支援事業部門

### 1. お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）

#### ①事業組織

事業代表者 福田恭介 （人間社会学部 教授）  
事業分担者 吉岡和子 （人間社会学部 准教授）  
                  小山憲一郎（人間社会学部 講師）  
                  二見妙子 （人間社会学部 助教）  
                  中藤広美 （人間社会学部 助手）

#### ②事業資金

福岡県立大学附属研究所費（2016年度）

項目：附属研究所費 「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」  
運営費 158,000円

\*ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ・プログラムと共通経費

#### ③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

#### ④事業の目的

この学習室の目的は、ご家庭で子どもにどのようにしたらうまく生活技能を教えることができるか、子どもの困った行動をどのようにしたら少なくすることができるか、などを保護者の方々に学んでいただくことにある。

ペアレントトレーニングとは、発達の遅れのある子どもを直接トレーニングするので

はなく、毎日子育てを行っている親の方を3ヶ月間でトレーニングしようという考え方である。その方が直接子どもをトレーニングするよりも、その後の経過が良好だと言われている。われわれは1999年から、「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」を実施してきている。

本事業の目的は、ペアレントトレーニングに参加する親に、子どもの行動と自分の行動を観察・記録するスキルを修得してもらうことで、子どもへの対応の改善と、子どもの行動の改善をめざすことである。

そこでは、子どもの行動についてできるようになってほしい行動とやめてほしい行動をあげてもらい、そこから子どもと親の行動をさまざまな側面から観察・記録してもらうことで、そこに支援の手がかりを見つけようとする試みを行ってきた。さらに、個別に面接を行うことでより介入的な支援も試みてきた。

その結果、多くの親がその改善に満足し、多くの手応えをつかんでペアレントトレーニングプログラムを終えていった。そこで親が身につけたものは、行動の観察・記録の仕方、困った行動への対処の仕方、子どもの行動のほめ方、子どもができないときの手がかりの与え方、子どものまわりの環境の整え方である。

ペアレントトレーニングプログラムを終えた親からのコメントには、「こんなことを言っても通じないだろうと思っていたが、やり方を変えるとこんなに通じやすいのかと驚いた」、「こんなにちょっとした工夫だけで子どもの行動が変わっていくのに驚いた」、「子どもに強化子を与えるのは動物の調教みたいでいやだったけど、実際に子どもが変わっていくのがわかり、無理なく子どもと接していけることに驚いた」、「子どもは、強化子のために行動しているというより、やはり親の自分との関わりを求めているのだなと思った」、子どもと一緒にいることが前より楽しくなった」といったものがあげられた。それにともない親の抑うつ度やストレス度も下がっていった。

#### ⑤事業の内容

対象：発達に遅れのある子どもを持つ保護者の方

子どもの年齢は、3歳から10歳頃まで

期間：春コース 2016(平成27)年 4月4日(面接)～6月13日

3ヶ月フォローアップ 9月26日

6ヶ月フォローアップ 12月19日

秋コース 2016(平成27)年 10月3日(面接)～12月12日

3ヶ月フォローアップ 2017年3月14日

6ヶ月フォローアップ 2017年6月26日

日にち		回	内容
春コース	秋コース		
4月4日	10月3日	第1回目	面接
4月11日	10月17日	第2回目	ペアレントトレーニングの考え方 目標行動の決定
4月18日	10月24日	第3回目	事例紹介 個別討議
4月25日	10月31日	第4回目	観察と記録の仕方 個別討議
5月9日	11月5日	第5回目	困った行動を減らすには 個別討議
5月16日	11月14日	第6回目	望ましい行動を増やすには 個別討議
5月23日	11月21日	第7回目	できないときの手助けの仕方 個別討議
5月30日	11月28日	第8回目	環境の整え方 個別討議

6月 6日	12月 5日	第9回目	個別討議 個別のビデオ視聴
6月 13日	12月 12日	第10回目	工夫した点などの披露、修了式
9月 26日	2017年 3月 14日	3カ月 フォロー	個別討議 目標行動のその後の様子と新たに取組んだことや質問など
12月 19日	2017年 6月 26日	6カ月 フォロー	個別討議 目標行動のその後の様子と新たに取組んだことや質問など

## 2. おもちゃとしょかん・たがわ

### ①事業組織

事業代表者：中藤広美（人間社会学部 助手）

### ②事業資金

福岡県立大学附属研究所費（2016年度）

項目：「おもちゃとしょかん たがわ」運営費 118,000円

参加者実費負担 とくになし

### ③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

### ④事業の目的

1)玩具を図書館形式で貸し出したり親子が交流の場として利用したりすることによって、発達の援助や子育て支援をおこなう。

2)利用の対象を未就学児童親子全般とし、小さな子ども達が安心して遊べる空間を提供しながら、おもちゃの貸し出しや、遊び方のモデル提示をするなどして発達の援助を行う。

3)保護者から寄せられた相談に応じ、さらに必要な場合には、本学のペアレントトレーニングの説明・案内及び関連諸機関を紹介し、発達障害児の療育支援を行う。

4)ペアレントトレーニング修了者のフォローアップの場として位置づけ、その後の取組み内容などへの相談に応じたり、具体的な取組みのアドバイスを رفتたりする。

### ⑤事業の内容

1.主な活動内容：おもちゃの貸し出し、遊び場の提供

2.おもちゃ貸出日：第1、3水曜日 13:30～16:00、第3土曜日 13:00～15:00  
(第3土曜日は、発達が気になるお子さんとその家族のみ)

3.利用対象者：発達が気になるお子さんやその家族、および乳幼児とその家族

4.2016（平成27）年度開館日数：32日間

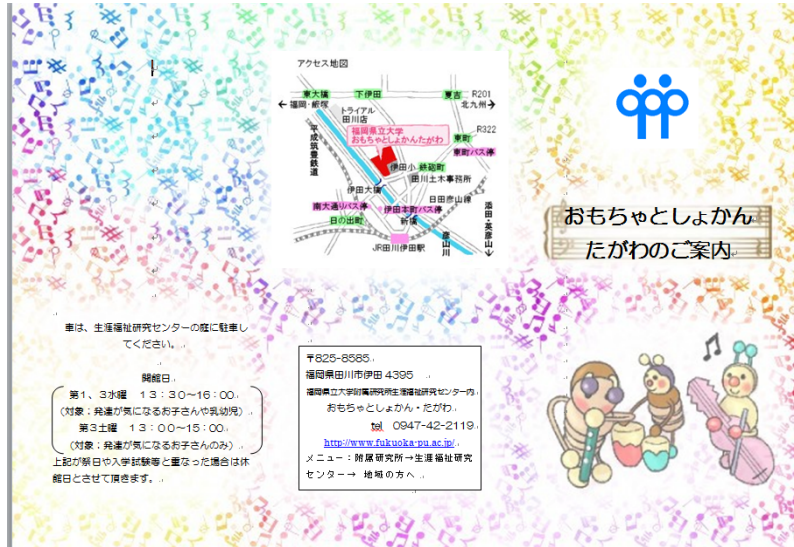
5.利用者 のべ198名（平成28年4月～平成29年3月）

## 6.貸出の手続

1. 申し込み票を提出し利用者カードを作成する
2. 貸出期間は1ヵ月
3. 貸出個数 絵本5冊 おもちゃ1点

## 7.貸出対象者

発達が気になるお子さんとその兄弟・家族、乳幼児、児童教育関係機関、地域の子育て団体など



おもちゃとしゃかん たがわパンフレット 表面



おもちゃとしゃかん たがわパンフレット 裏面

### 3. 福岡県立大学福祉用具研究会

#### ①事業組織

事業代表者：中村晋介（人間社会学部 准教授）

事業分担者：中藤広美（人間社会学部 助手）

大山美智江（非営利活動法人 NPO 福祉用具ネット事務局長）

坂田栄二（非営利活動法人 NPO 福祉用具ネット事務局）

#### ②事業資金

福岡県立大学 附属研究所費 171,000 円

#### ③主催団体・共催団体

共同主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

特定非営利活動法人 NPO 福祉用具ネット

#### ④事業の目的

「寝たきり」あるいは「寝かせきり」を予防し、可能な限り自力で生活できるように、生活支援の主たる介護サービスの一環として福祉用具の活用を推進することにある。それを推進するために、福岡県立大学福祉用具研究会が平成 10 年に発足し、以下のような目標の実現を目指している。

- ・福祉用具の活用が重要であることを広く啓発すること
- ・福祉用具に関する情報を提供し、利用者が福祉用具の知見を蓄積すること
- ・介護保険制度のなかで、福祉用具の活用と住宅改修を活用すること
- ・福祉用具の開発を支援するために、本研究会において用具の評価に積極的に取り組むこと

#### ⑤事業の内容

##### 1.研究会の開催 2016 年度テーマ：「事例検討会や開発相談について」

本研究会の強みは現場の最前線にいる人たちが実体験を踏まえていること、そして、他職種との意見交換を行うことで互いの考え方を理解でき、互いに高め合うことができていることである。この強みを生かし、2016 年度は、前年に引き続き「ふくおか医療福祉関連機器開発・実証ネットワーク」と連携しつつ、企業の試作品や新製品について論評を加える研究会を 9 回開催した。

##### 2.NPO 福祉用具ネットへの協力

本学福祉用具研究会と密接な連携を結んでいる NPO 福祉用具ネットの諸活動について支援を行った。

##### 3. P.P.C.2016

第 18 回西日本福祉機器展出展（サイエンスマンス・フクオカ 2016 として登録）

2016 年 11 月 24 日（木）～11 月 26 日（土）

主 催：西日本国際福祉機器展実行委員会（九州経済産業局、福岡県、北九州市、（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構九州支部、（独）日本貿易振興機構北九州貿易情報センター、北九州商工会議所、（社福）福岡県社会福祉協議会、（社福）北九州市社会福祉協議会、（財）北九州産業学術推進機構、（財）西日本産業貿

テーマ：高齢者はもとより障害者の自立と介護をする方の負担軽減を図る用具に社会の関心が集まっている。同展では、国・県・市の施策方針とリンクしながら、関係団体の企画参加を得て、地域に根ざした福祉の総合展示事業として、皆様に役立つ情報を発信する。

内 容：ポスターセッション、ブース出展  
福祉用具研究会の活動を報告するとともに、福岡県立大学全体の広報活動も実施した。

#### 4. アンビシャス親子広場・学生クラブ

##### ①事業組織

事業代表者：二見妙子（人間社会学部 助教）

##### ②事業資金：福岡県立大学 附属研究所費

##### ③事業の目的

生涯福祉研究センターにおける地域支援活動の一環として、乳幼児とその保護者に交流の場を提供する。未就園児を抱える子育て家庭の孤立しがちな状況を改善し、親子それぞれが、地域に共に育ちあう仲間作りを促進できるよう支援を行う。子育て支援の実践的研究を図るものである。

##### ④事業の内容

対象：乳幼児とその保護者及び子育てに関心のあるボランティア

開催日時：毎月 2 回から 3 回：木曜日、12:30～14:30

（開催日については大学 HP に掲載）

開催場所：生涯福祉研究センター プレイルーム

##### 内 容：

自由活動：弁当を食べながらの交流、館内のおもちゃを使用した自由遊び

相談活動：必要に応じた子育ての相談

その他：他のセンターとの交流活動、ボランティアによるコンサート活動

2016 年度開催回数：17 回参加者数：52 組、のべ 133 人

\* 学生クラブ、親子広場の活動支援（環境づくり）通年。

地域フィールドワーク 1 回。意見交換会 10 回。

しょうがいじのきょうだい児の会（4 回実施）

##### ⑤アンビシャス活動の停止について

・親子クラブの活動内容がおもちゃ図書館の活動と重複すること、及び近隣地域の行政における子育て支援の場づくりが進展したことなどから、29 年度以降の活動停止を決定。なお学生クラブの活動については、アドボチャイルド活動に集約する。



## 5. 地域に住む外国人のための日本語教室

### ①事業組織

主催：ボランティア組織「日本語くらぶ田川」（代表 末廣容子）  
共催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

### ②共催における事業分担

コーディネーター：中村晋介（人間社会学部 准教授）

### ③事業の目的

「地域に住んでいる外国人が、日本語が分からないために日常生活の中で困ったり、不利益を受けたりすることがないように、日本語教室を開催する。それにあたって必要な支援をしてほしい」という、地域からの相談があった。この相談は、生涯福祉研究センターがこれまで培ってきた子育てに関するネットワークの協働関係の中でなされたものである。地域支援・生涯教育の観点から、生涯福祉研究センターは近隣地域在住の外国人に日本語を教授するボランティア組織「日本語くらぶ田川」を支援している。

### ④事業の目的・内容

主な事業は、1)外国籍の方が日本で生きていく力をつけるための学習支援、2)多文化交流、3)子育て支援である。「日本語教室」は、毎月第2・4土曜日の10:00~11:30にかけて、生涯福祉研究センター棟にて開催している。中国・韓国・ベトナム・アメリカ等の方6名が継続的に受講。ボランティアが個別に寄り添って「あいうえお」から学習している。さらに、日本語の学習と共にお月見の茶会等の行事を体験した。



講義の様子



秋興祭にも出展

## 6. 足と靴の相談室

### ①事業組織

事業代表者：中藤広美（人間社会学部 助手）

### ②事業資金

福岡県立大学附属研究所費（2016年度）  
項目：「足と靴の相談室」事業費 86,000円

### ③事業の目的

「足と靴の問題性」に焦点を当て、「足と靴の問題性」を明らかにし、「健康は足もことから」という観点で問題解決に取り組み、快適な歩行を保証し、健康な体づくりを目指し、寝たきりを予防することで地域の活性化を目指すことであり、おもに次の3点を重点項目としている。

1)住民の足と靴の相談に応じるサービス

## 2)足、靴、歩行に関する啓蒙活動

### ④事業の内容

- 1)地域住民の足や靴に関するトラブルの相談に応じ、靴の選び方、歩き方などのアドバイスをを行う。
- 2)要望があれば、県立大学が作製に参加した靴のご案内（FPU ブランド）のご案内と、足底板作製のご案内を行う。
- 3)必要な場合は地元の整形外科医と連携して装具の作製のアドバイスをを行う。



**FPU ブランド靴**

**AMSTW 社製品**

### ○事業の流れ、仕組み、方法

- ・相談受付日：予約制
- ・場所：生涯福祉研究センター
- ・担当者：中藤広美
- ・相談の流れ

カルテの作成、問診、足の清拭、フットプリント採取  
足関節などの触診、足の状態の写真撮影、脚長差測定  
医師の指示で歩装具を制作（注1）する場合は採型  
オーダーメイドの靴を希望する場合は、靴の選定（注2）  
歩容チェック

靴の正しい履き方や歩き方のアドバイス

（注1） 田川市内の病院と連携

（注2） FPU ブランドの靴や本学と連携し靴を開発している AMSTW 社の靴を紹介する。

## 7. アドボチャイルド

- ① 事業組織  
事業代表者 二見妙子（人間社会学部 助教）
- ② 事業資金  
福岡県立大学附属研究所費（2016年度） 71,000円
- ③ 事業の目的  
・子どもの権利について学び、その立場から子どもの声を聴き行動しようとする市民を養成するための学習会、実践、ネットワークづくり。
- ④ 事業内容  
学習会（5回実施）  
「アドボチャイルドって何」  
「香春町の取り組みに学ぶ」  
「アドボチャイルド活動の進め方について」  
「アンビシャス広場にてワークショップ活動の提供」  
香春町こども食堂の実践に協力（3回実施）（研修会4回）

## Ⅲ 教育研修事業部門

### 1. ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム

- ①事業組織  
事業代表者 福田恭介（人間社会学部 教授）  
事業分担者 小山憲一郎（人間社会学部 講師）  
二見妙子（人間社会学部 助教）  
中藤広美（人間社会学部 助手）
- ②事業資金  
福岡県立大学附属研究所費（2015年度）  
項目：＊「ペアレントトレーニング相談事業」と共通経費 158,000円  
参加者実費負担 1人あたり5,000円
- ③主催団体・共催団体  
主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター、
- ④事業の目的  
子どもの問題行動を考える場合、それを無理してやめさせるよりは、それに代わる適切な行動を身につけさせるように支援していくことがより効果的だと言われている。これまでわれわれは、ペアレントトレーニングに取り組み、子どもの問題行動の改善を旨として保護者とともに取り組んできた。そこでは、一番改善したい行動を具体的に決め、その行動を観察・記録していくことで、対応策を考えていく。このようなペアレントトレーニングの取り組みは、保育・教育現場における特別支援教育にも応用可能だと考え、これまで蓄積してきた多くの対応策を教師や保育士とともに共有することでスキルアップしていく

ことを目ざした。

#### ⑤事業の内容

・受講者 のべ 113 名

- 5月27日(金) 「ペアレントトレーニングの実際と特別支援教育への応用」  
講師：福田恭介  
自己紹介と取り組みたい事柄を決定
- 6月3日(金) 「行動の観察の仕方と記録の仕方」講師： 小山憲一郎  
実際の行動について観察・記録の仕方の検討
- 6月17日(金) 「困った行動を減らし、望ましい行動を増やすには」  
講師：中村恵美子  
実際の行動について検討
- 7月1日(金) 「環境の整え方と手助けの仕方」講師：中藤広美  
参加者の事例を検討
- 7月22日(金) 事例発表と検討

## 2. 保育士・教師のためのペアレントトレーニングスキルアップ講座

#### ①事業組織

事業代表者 福田恭介 (人間社会学部 教授)  
事業分担者 小山憲一郎 (人間社会学部 講師)  
中藤広美 (人間社会学部 助手)

#### ②事業資金

直方市予算 (2016年度)

#### ③主催団体・共催団体

主催：直方市教育委員会こども育成課  
共催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

#### ④事業の目的

直方市の依頼を受け、本学で行われてきたペアレントトレーニング相談事業を保育士、小学校や特別支援学校の教員などに対するスキルアップ講座として、同市内でも実施した。内容は前節と同じ。

#### ⑤事業の内容

受講者 のべ 214 名

開催日 2017年1月6日(金)、1月13日(金)、1月27日(金)  
2月10日(金)、2月24日(金)  
各回とも 18:30~21:00

### 3. 筑豊英語教員フォーラム

#### ①事業組織

事業代表者：I.S.Gale（人間社会学部 准教授）

#### ②事業資金

特になし

#### ③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

#### ④事業の目的

- 1.筑豊地域で英語教育（中学校～高等学校）に携わっている日本人教員の実践的英会話能力、特に英語でのディベートの能力を向上させる。
- 2.ネイティブスピーカー（本学教員、ボランティア参加の ALT）と英語で議論させることにより、日本人教員の英語の発音を矯正していく。
- 3.地域で孤立しがちな ALT と、中学校・高等学校の英語教員との連携ネットワークを構築する。また、これを通して ALT の日本語能力を培う。
- 4.将来的には、本学の英語教育プログラム、特に英語圏への語学研修プログラムとの連動を構想したい。

#### ⑤事業の内容

日 時：2016年4月～2017年3月

隔週月曜日または火曜日 18:00～20:00

場 所：3号館 LL教室

ファシリテーター I.S.Gale（福岡県立大学人間社会学部 准教授）

対象者：筑豊地域で英語教育に関わっている者、英語教育・英会話に関心を持つ者

内 容：各参加者が近況について簡単なスピーチを行う。その後で、興味深いテーマがあれば、全体で討議を行う。原則として全て英語。

参加者：高等学校教員、本学教員、一般市民、福岡県立大学学生など、各回12～15名程度が参加

### 4. さわやかな自己表現塾

#### ①事業組織

事業代表者：中村晋介（人間社会学部 准教授）

事業分担者：吉岡和子（人間社会学部 准教授）

岩橋宗哉（人間社会学部 准教授）

麦島 剛（人間社会学部 准教授）

#### ②事業資金

福岡県立大学予算（2016年度）

項目：附属研究所費より 95,000円

#### ③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

#### ④事業の目的

学生のキャリア意識形成の支援を主な目的に、アサーション・トレーニングを実施した。むろん、アサーション・トレーニングそれ自体が職業的能力を高めるものではないし、これを受けることで、学生の就職活動が有利に進むわけでもない、しかし、学生たちがいずれその中に包摂される職場での人間関係、あるいは、学生が現在構築している友人関係・家族関係において、適切な方法で自己を表現できるスキルを習得したり、ストレスがかかった状態に陥った時に、過度に非主張的／攻撃的にならずに、状況に対処する方法を学ぶことは、学生の就業意欲、及び職業継続意欲を高い水準で保つことに貢献するだろう。

なお、この事業は、臨床心理士を志望する大学院生に対して、アサーション・トレーニングの技法を実地に学ぶ機会としても機能している。

#### ⑤事業の内容

講師 田中克江（福岡県立大学 心理教育相談室面接指導員） 参加者 10名

##### プログラム

2017年2月28日（火） 基礎編

【午前の部】（10:00～12:00）

- ・自己紹介
- ・ミニ講義「アサーションとは——3つのタイプのアサーション」
- ・体験学習「アサーティブなもの見方」「私の信条」「人としてのニーズ」「心の基本的人権」  
小グループに分かれてのディベート、アサーションをする権利の基礎についての基本的見解の統一などを実施した。

【午後の部】（13:00～15:00）

- ・シナリオ・ロールプレイによる体験学習  
講師が用意したシナリオに基づくロールプレイ。  
日本で開発されたアサーション技法である「Yes,But法」を使用。

2017年3月1日（水） 応用編

【午前の部】（10:00～12:00）

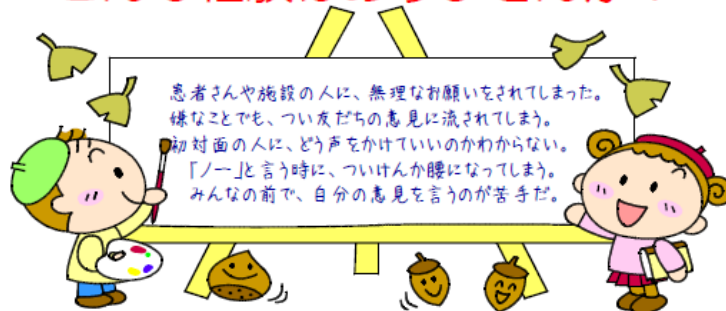
- ・苦手な対人場面のアサーションによる解決(1)  
参加者自身が対人関係で困っている場面を再現して、客観的な把握を試みる。  
「MY DEESCC法」による個別指導

【午後の部】（13:00～15:00）

- ・苦手な対人場面のアサーションによる解決(2)  
「MY DEESCC法」をもとに、シナリオ・ロールプレイを実施



## こんな経験はありませんか？



患者さんや施設の人に、無理なお願いをされてしまった。  
嫌なことでも、つい友だちの意見に流されてしまう。  
初対面の人は、どう声をかけていいかわからない。  
「ノー」と言う時に、ついけんか腰になってしまう。  
みんなの前で、自分の意見を言うのが苦手だ。

そんなあなたに、他の人と「うまくやっていく」コツを伝授します。  
講義ではありません。参加型のワークショップです。

学問的（臨床心理学）にちゃんと裏打ちされたトレーニングです。  
費用は福岡県立大学（附属研究所生涯福祉研究センター）が全額負担。

**友人関係、ゼミ発表、就職活動などで自信がつくかも！**

基礎編：2月28日（火） 10:00～15:00  
(休憩 12:00～13:00)

応用編：3月1日（水） 10:00～15:00  
(休憩 12:00～13:00)

指 導：田中克江（心理教育相談室 面接指導員・臨床心理士）

教 室：附属研究所棟 2F 中セミナー室（予定）

受講資格：福岡県立大学の学生・大学院生 上限24名  
(学部・学科を問わない)

基礎編1日だけの受講でもかまいません

基礎編を受けた上で、応用編を受講するか考え直してもOKです

今年度でいったん終了する予定です。過去に受講しなかった方はぜひ！

## 5. 福祉用具体験講習

### ①事業組織

事業代表者：中村晋介（人間社会学部 准教授）

### ②事業資金

福岡県立大学 附属研究所費

### ③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター

### ④事業の目的

福祉用具に関する知識を学ぶことの必要性、福祉用具の発展、「良い」福祉用具を、「正しく」使用した場合の快適さ、福祉用具を不適切に使用した場合の問題点などを、福祉や看護の現場に立つ学生に対して、実践的に理解させる。また、本学で15年以上活動してきた、福岡県立大学福祉用具研究会の活動内容を報告するとともに、その成果を学生と共有する。

⑤事業内容

日 時 2016年6月22日(水) 12:50~14:20  
講 師 海尾美年子 理学療法士 キネステティクス®ベーシックコース講師  
大山美智江 看護師・ケアマネージャー  
NPO 福祉用具ネット事務局長  
場 所 3号館 介護実習室  
参加者 学生, 教職員ほか20名

今年度は、現在、ヨーロッパの介護・看護の現場で広く取り入れられているキネステティクスについて、実技を中心に学ぶプログラムを提供した。コミュニケーションの概念として登場したこの発想は、現在で「介護される方の自然な動き」に着目した体位変換の考え方として注目を集めている。

**特別研修会 (福祉用具体験講習2016)**



**ごあいさつ**

みなさんは「キネステティクス」(Kiaesthetics)という発想をご存じでしょうか？

コミュニケーションの概念として登場したこの発想は、障害児教育や看護技術に取り入れられ、現在では「介護される方の自然な動き」に着目した体位変換の考え方として応用されるようになっていきます。ヨーロッパの看護・介護現場では、従来の方法(ボディメカニクス)に代わる新しい技法として、もはや一般的なものとなっています。

キネステティクスは、力まかせの全介助ではありません。介助する側と介助される側、周囲の環境などを包括的なシステムととらえ、「自然な動き」のような体位変換・介助を行います。これを使えば、介助者の身体的負担を減らせ、自力では動けない方さえも、「自分で動けた」かのような思いを抱くことすらあると言われています。

今年度の福祉用具体験講習は、このキネステティクスについて学びます。実際にベッドや車いすを利用して、身体を動かして体験していただきます。特別講義をしていただくことになりました。

貴重な機会です。学部や学科を問わず、福祉や看護、介護に関心があるみなさんのご参加をお待ちしています。

准教授 中村晋介 (福岡県立大学 福祉用具研究会)

**日 時 2016年6月22日(水) 12:50~14:20 (3限)**  
その後、時間がある方は個別相談も行います



## 6. リカレントセミナー①

### ①事業組織

事業代表者：細井 勇（人間）会学部 教授

### ②事業資金 福岡県立大学 附属研究所費

### ③主催団体・共催団体

主催 福岡県立大学生涯福祉研究センター・福岡県立大学人間社会学部社会福祉コース  
後援 福岡県立大学社会福祉学会

### ④内容

テーマ：ドイツの児童福祉と児童養護施設の取組み

日時 2016年9月1日 午後2時～4時

会場 都久志会館（福岡市天神）

講師 カトリック児童施設、セント・ヨーゼフ・デュールン施設長

レイムント・シュライネマツハ氏

通訳 県立広島大学 教授

三原 博光氏

参加者 30名

リカレント・セミナー開催の趣意（参加費無料）

講演ではドイツの児童福祉の概要と当該施設の取組みについてお話し頂く予定になっています。ドイツの児童福祉法は、1922年のドイツ国青少年福祉法に遡ります。戦後、西ドイツは1961年青少年福祉法を制定しますが、旧法の精神を受け継ぐものでした。しかし、1970年代の国際的な脱収容主義の議論を経て、また、東西ドイツの統一を経て1990年児童・青少年援助法が成立します。

セント・ヨーゼフ・デュールンは、1855年創立の長い歴史を持つカトリック児童施設です。1990年法の成立に伴い、これまでのカトリックのシスターによる施設管理に代わってソーシャルワーカー資格を持つシュライネマツハ氏が本施設の施設長に就任しました。

ドイツにおける児童・青少年援助法の精神と体系では、子どもの参加権、民間優位の原則、施設の多機能化、分権的で公私協働の市民参画型の行政機構等に特徴があります。本施設は、危機介入、診断機能から中・長期のグループホームまで、計15のホームをもって多様な活動を展開しています。

ドイツに児童福祉と施設実践に関する本セミナーが、児童福祉分野に留まらず、社会福祉に関わる専門職にとって、また学生にとって示唆となり、刺激となることを願い、ご案内申し上げます。

## 7. 福岡県立大学福祉学会(リカレントセミナー②)

### ①事業組織

事業代表者：細井 勇（人間）会学部 教授

### ②事業資金 福岡県立大学福祉学会、福岡県立大学 附属研究所費

### ③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学福祉学会

共催：附属研究所生涯福祉研究センター

### ④内容

1.大会テーマ：「地域包括支援体制を考える～変化を生み出すソーシャルアクション～」

2. 日 時：2017年3月4日（土）13：00～18：00

（12：30 受付開始）

3. 会 場：福岡県立大学 大講義室

（田川市伊田 4395 TEL: 0947-42-2118）

#### 4. プログラム

12：30～ 受付

13：00～13：10 開会式 学長 柴田 洋三郎、会長 細井 勇

13：10～14：25 基調講演（リカレントセミナー）

「地域包括支援体制を考える～変化を生み出すソーシャルアクション～」

講師：村上 須賀子 先生

（日本医療ソーシャルワーク学会 副会長）

14：35～17：00 分科会（児童福祉分野、医療福祉分野、  
高齢者福祉・障害者福祉分野）

17：10～17：40 全体会（各分科会の報告）、閉会式 参加者 105名

#### ◆開催のご挨拶（抜粋）

ここに、第8回の福岡県立大学社会福祉学会の開催を案内できますことを会員の皆様、院生、在学生とともに祝いたいと思います。とくに、この案内を学会としての最初のニュースレターの刊行とともに案内できますことを大変嬉しく思います。

ところで、今回の学会テーマは、「地域包括支援体制を考える～変化を生み出すソーシャルアクション～」です。本テーマでの基調講演を村上須賀子先生にお願いすることになりました。

本学会の前会長である大垣京子氏は、現在日本医療ソーシャルワーク学会会長をされています。現在も本学会の監事であります大垣前会長のご推薦で、日本医療ソーシャルワーク学会副会長の村上先生を本学会にお迎えすることができることになりました。改めて大垣前会長に感謝申し上げたいと思います。

こうして、このたび“変化を生み出す”ソーシャルワーク実践について改めて学ぶ機会を得ることができました。また、今回も3つの参加型の分科会が、関係者のご尽力によって設けられることになりました。

本学会が、会員、卒業生、在学生、教員等のよき交流の機会となり、刺激の機会となることを願い、同時に、関係者のご支援、ご協力への感謝を込め第8回大会開催の挨拶とさせていただきます。

2017年1月吉日

福岡県立大学社会福祉学会 会長 細井 勇

## 8. 山本作兵衛さんを「読む」会

### ①事業組織

事業代表者：森山沾一（福岡県立大学 顧問）  
野村喜七郎（「山本作兵衛さんを〈読む〉会代表）

### ③事業目的

2011年5月にユネスコ世界記憶遺産に697点の炭坑記録画及び日記等が日本初で登録された山本作兵衛(1892～1984)が遺した、炭坑の記録（日記）を解説し、電子ファイル化していく。

### ④事業内容

- ・「山本作兵衛さんを〈読む〉会」（以下「〈読む〉会」）の活動
- ・日記〈解説〉作業：毎週火曜日、13:00～15:00  
2016年度は48回開催

- ・場所 生涯福祉研究センター 中会議室など
- ・会員 15人

### ⑤ 事業の終了について

- ・現存する66冊の日記の解説を終了したので、2017年度をもって本事業を終了することに決定した。

## IV その他の事業

### 1. 筑豊市民大学（第16期）

主 催：筑豊市民大学  
共 催：福岡県立大学附属研究所（主担当：生涯福祉研究センター）  
内 容：講座コース、ゼミコース  
報告書作成 『第16期筑豊市民大学報告書』（2016年3月）

### 2. 山本作兵衛関連資料の整理およびデータベース化

・本学の附属研究所では、故・山本作兵衛氏が遺した絵画作品・日記・その他の各種遺品を管理している。世界記憶遺産登録された絵画作品や日記は本学附属研究所が直轄管理を行っており、それ以外の絵画作品・各種遺品は生涯福祉研究センターが管理をしている。平成26年度より、生涯福祉研究センターで有資格者（博物館学芸員資格所持者）を非常勤スタッフとして雇用し、同センター管理下にある絵画作品や各種遺品の整理・データベース化を行ってきた。平成28年度も本事業を継続し、文化財保護の観点から、これらの山本作兵衛関連資料を整理しデータベース化をすすめた。結果、作業はほぼ完了した。

編集委員

二見妙子（人間社会学部 助教／附属研究所 生涯福祉研究センター 専任研究員）  
中藤広美（人間社会学部 助教／附属研究所 生涯福祉研究センター 専任研究員）  
神谷英二（人間社会学部 教授／附属研究所 生涯福祉研究センター長）

福岡県立大学 附属研究所  
生涯福祉研究センター事業報告書 2016年（平成28）年度

2017年9月30日 発行

---

編集・発行：福岡県立大学 附属研究所  
〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395  
Tel:0947-42-2118 Fax:0947-42-6171  
<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/research/index.html>

作 製：よしみ工産株式会社  
〒804-0094 福岡県北九州市戸畑区天神 1 丁目 13 番 5 号  
Tel:093-882-1661 Fax:093-881-8467  
<http://www.e-yoshimi.jp/>

---